



New Yorkの町並み

Vol.08

トップ・アスリートがCBDを愛用する理由

文 シェリー めぐみ

Text by Megumi Shelley

NHLアイスホッケーといえば、1試合に1回は乱闘騒ぎが起きるといふ格闘技のような激しさで知られる、アメリカを代表するプロスポーツ。中でも荒々しいプレイで知られたスター選手ライリー・コーテは、現役の間は多くのケガや故障に見舞われ、その後遺症で引退後も慢性の痛みに悩まされていました。ところがCBDを使い始めてそれが大きく軽減されたといふ、コーテ選手はそれを「ゲーム・チェンジャー」と表現しました。

CBDはカンナビスという植物の一種ヘンプから抽出される成分。ドラッグとして知られるマリファナもカンナビスの一種ですが、マリファナに含まれるハイになる成分THCとは違い、主にオイルの形で流通するCBDは、アメリカでは不安や不眠の解消からスキンケアまで様々な用途で使われています。2019年はその認知度が飛躍的に上昇、商品の種類や数も増え、ウォルマート、ウォルグリーンズなど大手小売りチェーンもCBD商品を取り扱うようになっていきます。

そしてその最も大きな恩恵を受けているのが、冒頭にご紹介しようなアメリカのトップ・アスリートかもしれません。自らCBD使用を公表、またはCBD製品のプロモーションに協力しているアスリートは、元NFLアメリカンフットボール選手、現役NBAバスケットボール選手からマーシャル・アーツ選手、プロゴルファー、サーファー、オリンピック選手まで多岐にわたっています。

中でも元NFLのティキ・バーバー、ロブ・ブロンコウスキー、元NBAのポール・ピアースの三人のスター選手は、自らCBDビジネスに投資していることでも知られ、彼らの活動がスポーツ界でのCBDの知名度をアップさせ、信頼度を高めたと言えるでしょう。

実はつい最近まで世界アンチ・ドーピング機関もUSアンチ・ドーピング機関も共にCBDを含む全てのカンナビス関連製品の使用を禁止していました。しかしここ数年で禁止項目からCBDを除外することを決定したため、スポーツ界でもCBDが大ブレイク。12000人のアスリートを対象とした調査では7割近くがCBDを使用した経験があると答えています。

その背景にはオピオイド系の強い鎮痛剤の問題があります。特に手術後の強い痛みに対してオピオイド系鎮痛剤を処方

された患者は、やがて依存性となり違法なヘロインや合成オピオイドの依存症に発展、年間4万8000人という多くの中毒死者を出しアメリカ最大の社会問題の一つとなっています。怪我やそれに伴う手術も少なくないプロアスリートは、オピオイド系鎮痛剤への依存症リスクもより高くなります。そんな彼らがCBDに注目したのは当然かもしれません。

こうした動きに対しNBAとNFLでは、選手たちにCBDをもっと有効に安全に使用してもらうために、医学的研究を独自に始めています。

Profile

ジャーナリスト・ミレニアル世代評論家。1991年からニューヨーク在住。ラジオ・テレビディレクターとして多くの音楽・情報番組を制作した後、長いアメリカ生活で培った人脈や知識、知見を生かし、健康医療、環境、移民、人種、音楽などをテーマに、トレンドや社会現象の背景とその先を知るための一歩踏み込んだ情報をラジオ・ネット・紙媒体などを通じて発信。ニューヨークのミレニアル世代の若者とも交流を深め、ミレニアル世代評論家としても様々な媒体に情報を提供している。早稲田大学政経学部経済学科卒業
オフィシャルブログ <https://megumedia.com/>

